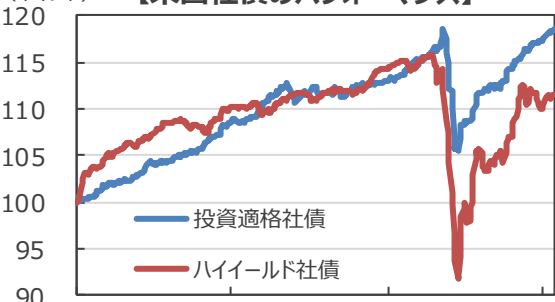


今日のトピック 順調に回復する米国社債市場 特に、投資適格社債（IG債）のパフォーマンスが好調

ポイント1 米国社債市場は順調に回復 新型コロナによる混乱から立ち直り

- 米国社債市場は、新型コロナ感染拡大を受けた企業業績の悪化懸念や信用リスクの上昇により、今年3月に大幅にパフォーマンスが悪化しました。しかし、3月23日に米連邦準備制度理事会（FRB）が社債購入プログラムを含む大規模な追加の金融緩和策を発表したため、社債市場は反発に転じました。
- 7月14日までの年初来騰落率を見ると、ハイールド社債は▲2.5%のマイナスですが、投資適格社債は+4.9%のプラスまで回復し年初来高値の水準に迫っています。

(ポイント) 【米国社債のパフォーマンス】

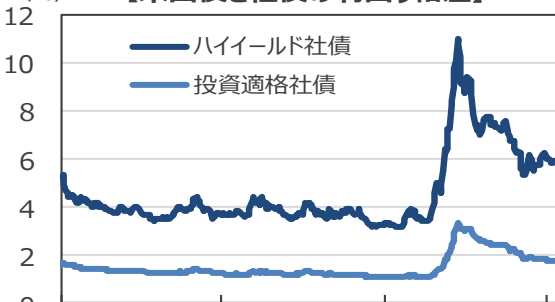


19/1 19/7 20/1 20/7
(注) データは2019年1月1日～2020年7月14日。(年/月)
2019年1月1日=100として指数化。指数はともに、
Bloombergバークレイズ米国社債指数ベース（トータルリターン）。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセット
マネジメント作成

ポイント2 相対的に高い利回りが魅力 米国の金融緩和政策は当面継続

- 社債スプレッド（社債と国債の利回り格差）は、新型コロナによる信用収縮が極端に高まったことから、3月23日には投資適格社債が338bp（ベースポイント）、ハイールド社債が1,100bpまで急上昇しました。
- その後は、FRBが社債購入を開始し、ゼロ金利政策を当面維持するとしたことから、社債スプレッドは縮小へ向かい、足元では投資適格社債が176bp、ハイールド社債が585bpまで低下しています。

(%) 【米国債と社債の利回り格差】



19/1 19/7 20/1 20/7
(注1) データは2019年1月1日～2020年7月14日。(年/月)
(注2) 利回り格差は、社債利回りと国債利回りの差。
Bloombergバークレイズ米国社債指数ベース。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセット
マネジメント作成

今後の展開 堅調な展開が続く見込み

- 米国経済は、5月中旬からの経済活動再開、大規模な財政支援、FRBによる金融緩和の継続を背景に、緩やかながら回復が続くと考えられ、社債市場は堅調な展開が続くとみられます。ウィズコロナ下で低金利が恒常化する中、投資適格社債、ハイールド社債ともに、利回りを追求する資金流入が続くと期待されます。
- 足元、米国では新型コロナの感染が再拡大し、一部の州では経済活動再開を一時停止する動きが広がっています。行動制限が拡大したり、長期化した場合、企業業績に影響を及ぼすことが想定されますが、FRBによる金融緩和の継続、社債購入実施などから、社債市場はある程度下支えされると考えます。

ここも
チェック! 2020年7月10日 主要な資産の利回り比較（2020年6月）
2020年6月11日 FRBはゼロ金利政策を22年末まで維持

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。